



学校法人 梅光学院

BAIKO VISION for 2025

総合学園としての宣言

中長期計画書 Vol.2 2021→2025



梅光学院大学
BAIKO GAKUIN UNIVERSITY



梅光学院中学校・高等学校
BAIKO GAKUIN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL



梅光学院幼稚園
BAIKO GAKUIN KINDERGARTEN



BAIKO VISION for 2025

前 文

1872 年キリスト教禁教下の長崎で、キリスト教信仰を伝えることを目的に日本にやってきたスタウト宣教師夫妻によって梅光学院の礎が据えられた。以来梅光学院はキリスト教信仰をその教育の根本原理とし、また目標にして歩んできた。

「キリスト教信仰」とは「神（キリスト）による人間の救い」を受け入れることである。全ての人に罪（原罪）があり、それがキリストの十字架での死とその 3 日後の復活によって贖われる（赦される）ことを信じるのがキリスト教信仰である。

信仰は努力の成果ではなく、したがって「教育」によって「信仰」に至らせたり至ったりすることはできない。「信仰」は神によって与えられる賜物である。しかし、「教育」は「キリスト教信仰」に土台を置くことで人を生かす力を持つと私たちは信じている。

キリスト教信仰に土台を置く教育を、BAIKO VISION for 2025 の中では、以下のように定義する。

- ・隣人（他者）に対する愛に大いなる価値を置いている。
- ・人間の物理的な有限性と倫理的な有限性を認識している。
（その能力や生命に限界があり、また罪から完全に解放されていないこと）
- ・知的な分野では批判的な思考を重んじる。
（神以外に絶対はなく、相対的な正しさの中で常に判断を求められる）
- ・倫理的な分野では経験と行動を重んじる。
（自分から外へ、世界へ出て行き、行動して経験することによって成長すると考える）

補足説明《隣人愛と経験・行動主義》

私たちの建学の精神の中に「（自己の能力を）他者のために用いる」という文面がある。梅光学院で教育を受けた者は、社会において自分の力を人のために使う生き方をするようになる、という意味である。そのような人を育てるために、私たちは全ての働きを行う。

キリスト教で言う隣人愛にはキリストの生き方が反映される。十字架の死による人間の罪の贖い（あがない）に象徴される「自己犠牲」である。自己犠牲は自分の利益を求めず、人を生かすあり方を言う。

神の赦しと愛は、人を生かす。わがままな振る舞いを許して、そうした行いを助長するのとは対極にある。したがって教育においても、働き方においても、私たちは愛（ゆるし）と甘やかさを混同してはならない。

私たちの建学の精神が大切にしてきたことに「新しい世界を切り拓く能力」がある。新しいことに取り組む行動と、失敗をも含めた経験が私たちを成長させ、前進させる。

補足説明《梅光の教育改革》

日本の高齢化と少子化は世界で最も深刻なレベルで進んでいる。主に若い世代を対象とす

る本学院の教育活動は今後さらに厳しい環境の中で行うこととなる。そもそも存続が難しい。真に必要とされる園・学校・大学にならなければすぐに消滅の憂き目にあうだろう。どうしたら世に必要な教育機関となれるだろうか。この問いへの答えはそう簡単には見出せない。ただ、その答えが、「過去の梅光に戻ること」「今の梅光にとどまること」で「ない」ことは確かだ。世界は日々変化しているから。また、私たちの学院はすでに「完成」してはいないから。だから「教育改革」なのである。改革をひとときも止めてはならない。変えること、変わること、それによって成長することを止めてはならない。梅光のビジョンはそこを原点にしている。

BAIKO VISION for 2025 のキーワード、キーコンセプトは「共有」と「環境整備」

○共有とは・・・

- ・理念の共有（建学の精神と教育方針）
- ・情報の共有（ペーパーレス化とデータ利用）
- ・教育の共有（内容・方法・理念）
- ・働き方の共有（内容・方法・理念）

○教育改革を実現するための環境整備とは・・・

- ・建学の精神と教育方針を実現する環境整備
- ・効率的な仕事実現のための環境整備
- ・共有化を推進する環境整備

学院全体方針



信仰

建学の精神

全てのベクトルが建学の精神実現へ向いている学院にする。＜研修と実践状況の確認＞

Goals of 2025

★学院の全ての働き手が、建学の精神「強くしなやかな精神と、新しい世界を切り拓く能力を、他者のために用いることのできる人間を育てる。」の実現のために業務に従事していることを理解し実践に生かしている。その具体的な方針は「隣人愛」と「経験・行動主義」に要約される。



教育

教育改革

園児・生徒・学生・教職員が「隣人愛」と「行動・経験」を大切にする生き方に向かうための教育を目指す。＜建学の精神がどう反映させるようにするか、方法と確認＞

Goals of 2025

★全ての教育活動とそれを支える業務が建学の精神を具現化するために行われていることが、事業計画書、シラバス、企画書等で確認できる。



人事政策・労務管理（人材育成を含む）

梅光学院が価値ある教育を提供した結果存続できるため、私たちはビジョン（BAIKO VISION for 2025）に基づく役割を認識する。＜研修（各学校種）と人事・労務管理政策（法人）＞

Goals of 2025

- ★全ての働き手が、学院全体の中で、各学校種・法人で、各担当領域で、どんな役割を持ち、何をすべきか、何をすべきでないか、それはなぜか、明確にわかっている。



教育環境・就労環境（施設設備計画含む）

教育・就労環境（オン・オフキャンパス共に）が建学の精神と教育方針に基づいたあり方にする。＜環境整備計画、施設・設備計画＞

Goals of 2025

- ★本学院の 建学の精神と教育方針に沿った設備投資及び環境整備が行われている。
- ★複数年計画に基づいた予算確保と執行を行う。



財政基盤（募集戦略を含む）

教育改革を進めるため（＝存続するため）に必要な資金を確保する。＜園児・生徒・学生募集計画（各学校種）、財政シミュレーション（法人）＞

Goals of 2025

- ★学院全体の教育の存続という観点から予算とその執行を考える。園児、生徒、学生の定員数の確保が基準となる。それが達成されない状況にある時は、予算計画立案とその執行の仕方により学院の存続を維持できるようにする。



コンプライアンス、規程の整備

建学の精神に基づく、なすべき教育改革を、法制度に従った適切な執行によって実現させる。＜規程整備計画、規程以外の教育・業務執行整備計画＞

Goals of 2025

- ★規程を 2025 年度終了までに計画的に整備する。
「規程の整備」とは
 - ・ 規程（学院のあらゆるルール）が建学の精神と教育改革の実現に資するものであることを確認し、そうでなければそのように変えること。（廃止を含む）
 - ・ 建学の精神、教育改革、それに伴う働き方改革に必要な規程を作成すること。
 - ・ 全ての規程が公的な法制度に適うものであることを確認し、そうでなければそのように変えること。（廃止を含む）
 - ・ 規程の条文をわかりやすいようにすること。（校正、編集等）

★教育と業務の執行に関わる不文律のあり方を、建学の精神と教育改革の実現のためにふさわしいものとする。また、それが公的な法制度に照らして適切なものにする。



徹底した情報の共有（IR・学院内連携・社会連携を含む）

誰もが、どの情報がどこにあるか明確に知っており、それを利用して教育や業務を行えるようにする。＜共有化計画＞

Goals of 2025

★クラウド上での情報共有を基準とし、2025年度までに、公的に求められるか、または業務の性質と必要上「紙」の資料が必須の場合を除き、100%電子的なデータとする。

★100%ペーパーレス化は次の条件を満たすようになされなければならない。

- ・できるだけシンプルな共有方法を取る（無駄なものの削除を含む）
- ・情報の質を常に点検し向上させる
- ・共有されたデータが教育改革に利用されるようにする
- ・業務の効率化を推進するために行う（効率が悪くなるようなことは避ける）

梅光学院幼稚園

信仰：Goals of 2025

★TS・MS に対する建学の精神、園の3つの柱に関する研修を行い、各人がそれをよく理解し、保育・教育活動の内容と方法が建学の精神に基づくものとなることができるようになっている。この研修は園内外の研修が含まれる。また礼拝をはじめとするキリスト教関連の行事や教育機会も全て研修としても位置付けられる。

★研修の「内容」「方法」「評価」が建学の精神に基づいたものとなっている。

★建学の精神の内容のうち「隣人愛」と「経験・行動主義」を大切なものとしている。

Action Plan（2021年度含み、2022-2025を見据えて）

- 教職員が聖書理解を深めるための園内研修計画を作成する。
- 保護者対象の「子育てと聖書の学びの会」を計画的に実施する。
- キリスト教関連行事を積極的に保育活動に組み込み、保育や研修の核とする。

教育：Goals of 2025

★園の保育・教育活動（行事などを含む）が建学の精神や園の3つの柱に基づいて行われている。それが園のステークホルダー（園児、保護者、MS、TS、過去と将来の園児とその家族）に理解されている。

★園の教育活動を支える業務の全てが建学の精神に基づいて行われている。

Action Plan（2021年度含み、2022-2025を見据えて）

- キリスト教保育の観点から、園の教育課程を改訂・策定する。
- 3つの柱の意義を明確に示し、教職員・保護者・園児で共有する。また、園関係者の理解を

拡げる。

○園の全ての活動は、祈りをもって開始し、主要行事は礼拝として位置づける。

人事：Goals of 2025

★MS・TS の役割が明確になっている。

★MS・TS の役割を毎年振り返り、再検討を加え、必要なら新たな定義が行われている。

★MS・TS の役割にふさわしい人事管理が行われている。

★MS・TS の役割にふさわしい研修が行われている。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

○教職員の研修(園内・園外)を計画的に年間計画に位置づけ、研修結果は建学の精神等との関連によって実践活動に生かす。

○各学級等の振り返りを適時行い、情報の共有を適切に行う。

○将来を見通した人事配置計画を作成する。

環境：Goals of 2025

★毎年の施設、設備計画と予算が、建学の精神とその時々の教育方針に沿ったものであり、またそれが毎年実行されている。

★教育とそれを支える業務が目的にあって、かつ効率的にできるように、幼稚園の保育と仕事環境の整備が行われている。そのための具体的な計画作成と、それに基づく環境整備が行われている。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

○幼稚園の保育方針と実態にマッチした、園庭の整備計画（大型遊具の入替・新設等）及び園舎の整備計画（施設の改修・備品の設置等）を立案する。（教育的効果と広報的效果を考慮する）

○教職員の業務を効率化しよりよい保育に資するための IT 化を計画的に推進する。また、それと関連した環境整備を計画的に推進する。

○教職員が働きやすい環境整備を定期的に（毎日）実施する。（コンピュータ内環境・紙媒体環境の整備、日常的保育環境整備）

財務：Goals of 2025

★新入園児 25 名以上を確保している。

★在籍園児全体で 85 名以上を確保している。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

○ホームページを閲覧者のニーズへの満足度を高めるようリニューアルし、閲覧回数と入園希望を増やす。

○オープンスクールや園開放等を計画的に行い、入園児増に活かすとともに、地域社会への

貢献活動の一助とする。

- パンフレットをリニューアルするとともに、園設備（園舎や園バス等）を活用して、園の特徴や園児募集についての周知を行う。

遵法：Goals of 2025

- ★園の目指す姿と現状を見据えて規程等が更新されている。
- ★教職員が規程を踏まえた業務を行なっている。

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- 園則等の諸規程、園務関係書類等を整備し、IT を活用してデータベース化する。
- 教職員間で規程等を共有・理解し、その規程等を踏まえた業務遂行を行う。
- 保護者に示すべき規定等について整理し、保護者へ説明する。

共有：Goals of 2025

- ★教職員間及び保護者との情報共有ではクラウド活用を推進している。
- ★地域等との交流を積極的に行っている。

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- 情報共有等のクラウド活用を工夫・試行・改善する中で、積極的なクラウド活用を推進する。
- 教職員・保護者や関係者との情報共有におけるペーパーレス化を積極的に推進することにより、業務等の効率化を行う。
- 地域・他機関との交流・連携を保育活動に効果的に組み込む。

梅光学院中学校・高等学校

信仰：Goals of 2025

- ★TS・MS に対する建学の精神に関する研修を行い、各人がそれをよく理解し、教育や業務の内容と方法が建学の精神に基づくものとすることができるようになっている。この研修は学校内外の研修が含まれる。また礼拝をはじめとするキリスト教関連の行事や教育機会も全て研修としても位置付けられる。
- ★研修の「内容」「方法」「評価」が建学の精神に基づいたものとなっている。
- ★建学の精神の内容のうち「隣人愛」と「経験・行動主義」を大切なものとしている。

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- MS・TS の聖書研修会を実施する。
- 礼拝の重要性を学校全体で再共有し、質を高める仕組みを作る。
- 礼拝の内容を生徒、保護者、TS、MS、さらに広く学校外と HP 等で共有する。

教育：Goals of 2025

- ★中学校・高等学校の教育活動（行事などを含む）が建学の精神に基づいて行われている。
それが学校のステークホルダー（生徒、保護者、MS、TS、過去と将来の生徒とその家族）に理解されている。
- ★中学校・高等学校の教育活動を支える業務の全てが建学の精神に基づいて行われている。

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- 建学の精神が教育に反映しているか確認する方法を制度化する。それにより中高の授業や行事や生徒指導など学校教育のあらゆる場面で一貫して建学の精神が反映されるようにする。
- 建学の精神が業務に反映しているか確認する方法を制度化する。それにより中高の学校教育を支えるあらゆる業務で一貫して建学の精神が反映されるようにする。

人事：Goals of 2025

- ★MS・TS の役割が明確になっている。
- ★MS・TS の役割を毎年振り返り、再検討を加え、必要なら新たな定義が行われている。
- ★MS・TS の役割にふさわしい人事管理が行われている。
- ★MS・TS の役割にふさわしい研修が行われている。

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- 建学の精神と教育方針に従い MS・TS の役割を再定義する。
- 役割と評価に見合った処遇にするため、不断に雇用条件と内容を見直す。
- 魅力的な働き場であることを内外に発信し、有用な人材を獲得する。

環境：Goals of 2025

- ★毎年の施設、設備計画と予算が、建学の精神とその時々教育方針に沿ったものであり、またそれが毎年実行されている。
- ★教育とそれを支える業務が目的にあって、かつ効率的にできるように、中学校・高等学校の教育と仕事環境の整備が行われている。そのための具体的な計画作成と、それに基づく環境整備が行われている。

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- 中高の将来構想に沿った施設設備計画を立案しそれに従った施設設備の保全と改修、整備を行う。（使用する施設を最低限まで絞り込み、限られた資源をそこに集中する。）
- 毎日組織的に職場環境整備を行う。
- 定期的に組織的に教育環境整備を行う。

財務：Goals of 2025

★新入生について、中学校 20 名以上高校生 35 名以上を確保している。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

- 生徒が活躍する学校作りを行う。
- 保護者の信頼を獲得する。
- 授業の内容・方法・評価法・生徒の満足度において組織的に向上させる。

遵法：Goals of 2025

★中学校・高等学校が目指す姿と現状を見据えて規程等が更新されている。

★教職員が規程を踏まえた業務を行なっている。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

- 学則を毎年見直し、その時の学校の方針に最適化する。
- 生徒（生徒会）と TS・MS が校則を常に見直し、教育方針と建学の精神、時代の要請に合ったものとする。
- TS・MS の諸規程に関する研修を定期的に行い、各自の業務、教育の技が、常に規程を反映したものであるようにし、また規程が違っていればそれを適したものに直す。

共有：Goals of 2025

★教職員間及び生徒・保護者との情報共有ではクラウド活用を推進している。

★地域等との交流を積極的に行っている。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

- Blend（教務システム）と Teams と Box を用いて、生徒、保護者、MS、TS 間のコミュニケーションと共有化をさらに進め、徹底的なペーパーレス化を実現する。
- 地域との交流を組織的に進める仕組みを構築し、教育とそれを支える業務において地域との連携を図る。

梅光学院大学

信仰：Goals of 2025

★TS・MS に対する建学の精神に関する研修を行い、各人がそれをよく理解し、教育や業務の内容と方法が建学の精神に基づくものとするができるようになっていく。この研修は大学内外の研修が含まれる。また礼拝をはじめとするキリスト教関連の行事や教育機会も全て研修としても位置付けられる。

★研修の「内容」「方法」「評価」が建学の精神に基づいたものとなっている。

★建学の精神の内容のうち「隣人愛」と「経験・行動主義」を大切なものとしている。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

- MS・TS の聖書研修会を実施する。
- 礼拝の重要性を大学全体で再共有し、質を高める仕組みを作る。
- 礼拝の内容を学生、保護者、TS、MS、さらに広く学外と HP 等で共有する。

教育：Goals of 2025

- ★大学の教育活動（行事などを含む）が建学の精神に基づいて行われている。それが大学のステークホルダー（学生、保護者、MS、TS、過去と将来の学生とその家族、就職先、高等学校など）に理解されている。
- ★大学の教育活動を支える業務の全てが建学の精神に基づいて行われている。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

- 建学の精神が教育に反映しているか確認する方法を制度化する。それにより大学の授業や行事や学生支援など大学教育のあらゆる場面で一貫して建学の精神が反映されるようにする。
- 建学の精神が業務に反映しているか確認する方法を制度化する。それにより大学の教育を支えるあらゆる業務で一貫して建学の精神が反映されるようにする。

人事：Goals of 2025

- ★MS・TS の役割が明確になっている。
- ★MS・TS の役割を毎年振り返り、再検討を加え、必要なら新たな定義が行われている。
- ★MS・TS の役割にふさわしい人事管理が行われている。
- ★MS・TS の役割にふさわしい研修が行われている。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

- 建学の精神と教育方針に従い MS・TS の役割を再定義する。
- 役割と評価に見合った処遇にするため、不断に雇用条件と内容を見直す。
- 魅力的な働き場であることを内外に発信し、有用な人材を獲得する。

環境：Goals of 2025

- ★毎年の施設、設備計画と予算が、建学の精神とその時々教育方針に沿ったものであり、またそれが毎年実行されている。
- ★教育とそれを支える業務が目的にあって、かつ効率的にできるように、大学の教育と仕事環境の整備が行われている。そのための具体的な計画作成と、それに基づく環境整備が行われている。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

- スタージェスホーム（寮）、スタージェスハウス（学食）、学生会館（ショップ、部室等）の将来計画を立案する。解体と跡地活用（大学生協とコラボし、食堂・ショップ等を有する学生向け福利厚生施設を設置する等）に着手する。

- 毎日組織的に職場環境整備を行う。
- 定期的に組織的に教育環境整備を行う。

財務：Goals of 2025

- ★新入生について、350 名以上を確保している。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

- 建学の精神に基づき、さらに毎年の教育方針に従った教育内容と手法により特色ある大学作りを行い、それを内外に発信する。
- 学生の成長を可視化し、内外に発信する。
- 授業の内容・方法・評価法・学生満足度において組織的に向上させる。

遵法：Goals of 2025

- ★大学の目指す姿と現状を見据えて規程等が更新されている。
- ★教職員が規程を踏まえた業務を行なっている。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

- 学則を毎年見直し、その時の大学の方針に最適化する。
- 学生（学友会）と TS・MS が学則や学生便覧を常に見直し、教育方針と建学の精神、時代の要請に見合ったものとする。
- TS・MS の諸規程に関する研修を定期的に行い、各自の業務、教育の技が、常に規程を反映したものであるようにし、また規程が違っていればそれを適したものに直す。

共有：Goals of 2025

- ★教職員間及び学生・保護者との情報共有ではクラウド活用を推進している。
- ★地域等との交流を積極的に行っている。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

- 教務システムと Teams と Box を用いて、学生、保護者、MS、TS 間のコミュニケーションと共有化をさらに進め、徹底的なペーパーレス化を実現する。
- 地域との交流を組織的に進める仕組みを構築し、教育とそれを支える業務において地域との連携を図る。

学校法人梅光学院（法人部門）

信仰：Goals of 2025

- ★TS・MS に対する建学の精神に関する研修を行い、各人がそれをよく理解し、教育や業務の内容と方法が建学の精神に基づくものとなることができるようになっていく。この研修は学院内外の研修が含まれる。また礼拝をはじめとするキリスト教関連の行事や教育機会も全て研修としても位置付けられる。

★研修の「内容」「方法」「評価」が建学の精神に基づいたものとなっている。

★建学の精神の内容のうち「隣人愛」と「経験・行動主義」を大切なものとしている。

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- 年に 1 回以上、キリスト教や建学の精神に関する研修会を開催する。
- 各学校種で実施している礼拝運営への協力（出席を含む）を TS、MS 共に求めるとともに、参加しやすい環境を整備する。
- 各企画書やシラバスの様式等について、建学の精神との関係性が確認しやすいものへ変更する。

教育：Goals of 2025

★全ての教育活動とそれを支える業務が建学の精神を具現化するために行われていることが、事業計画書、シラバス、企画書等で確認できる。＜建学の精神がどう反映させるようにするか、方法と確認＞

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- 各学校種（発達段階）に応じた、建学の精神を具現化するための教育改革が行われるようにサポートする。
- 教育活動が、梅光学院全体を通して一つの流れとなるように調整する。

人事：Goals of 2025

★MS・TS の役割にふさわしい労務管理関連規程が整っている。

★MS・TS の役割が各人と互いに理解できるよう、研修等の計画をたて、実施されている。その成果が上がっている。

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- 学院としての在るべき教職員像を確立（明文化）し、それに基づいた、計画的な教員の採用を行う。
- 年間を通して、研修スケジュールを提示する。
- 在宅勤務やワーケーション等、新たな働き方について、積極的な検証を行い、多様なスタッフのニーズに応えられるワーク・ライフ・バランスのとれた働き甲斐のある職場環境の構築を行う。

環境：Goals of 2025

★常に学院内のどこかで、教育方針に沿った新・改築が行われているような建築計画が実行されている。

★複数年計画に基づいた予算確保と執行により、突発的な施設設備投資が一定額に抑制されている。

★各分野において、誰もが扱いやすいシステムを提案・選定・導入することで、教育環境や

就労環境の利便性をサポートしている。

★全学院の働き場において、その建学の精神とその時々の教育方針に適った環境整備が行われるよう、不断の整理・整頓を実施している。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

○施設設備の計画的修繕と改修

学院全体の 2030 年度までの施設整備計画（営繕含む）を立案し、それに基づいた計画的予算執行を行う。選択と集中を意識し、メリハリの利いた投資を行う。

（突発的な施設設備投資を 500 万円以下に抑える。）

○既存システムの見直し・再点検による導入システムの入れ替え及び新システムの導入を継続的に行う。

財務：Goals of 2025

★各学校種で、入学/入園者数を一定数（幼稚園=25 人、中学=20 人、高校=35 人、大学=350 人）確保できるように各学校種を支援している。

Action Plan (2021 年度含み、2022-2025 を見据えて)

○財政の健全化（目標経費率を維持する）

- ・大学の収容定員を確保する。
- ・中・高校は、中学校 20 名、高校 35 名の入学者を達成することにより、収支差額をマイナス 5 千万円以内に抑制する。
- ・幼稚園は 25 名の入園者を確保する。
- ・競争的資金や寄付金等外部資金の増加、資金運用による収入増を図り、経費節減と合わせて、人件費比率 45%、教育研究費比率 35%、管理経費比率 15%、収支差額比率 5%を維持する。

○予算統制の厳格化

- ・予算編成方針に基づき、各部署は全ての事業の総見直しを行った上で予算案を作成する。計画的・効率的な予算執行システムを確立し、メリハリの効いた予算執行を行う。
- ・中長期計画推進本部会議にて各部署から月 1 回進捗状況報告を行う。

○補正予算編成の常例化

- ・時代の変化・環境変化により、一定規模の臨時支出、収入増がある場合は、補正予算を編成し、理事会の承認を得る。
- ・予備費 30 百万円を計上する。

遵法：Goals of 2025

★MS が業務執行時に、法律や規程を意識した上で行動できている。

★規程を計画的かつ恒常的に更新しており、規程全体が整備された状態になっている。

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- 役員の担当業務について、その権限と責任の範囲を明文化する。
- 法務・コンプライアンス（監査）等の分野を担当する職員及び組織全体の研修を通じて、組織全体の機能向上を行う。
- 規程を継続的に確認・整備し、月間 5 本程度の規程を更新することを目指す。

共有：Goals of 2025

- ★学院内で完結できる事務手続きについては、全て電子的な処理が可能となっている。
- ★学院内のデータを一元管理し、各スタッフのアクセス権限に応じて情報を活用できる。

Action Plan（2021 年度含み、2022-2025 を見据えて）

- 情報公開・公表項目について、閲覧者からより分かりやすい見せ方を工夫し、客観的データを広報データとして見せられるような意味づけを行う。
- 学院のメインストレージである BOX のより便利な活用方法を共有することを通して、BOX 上にデータを保管しておきたくないような働きかけを行う。

【2019～2033年】 財政シミュレーション

	2014	増減	率	2017
大学 学生数(人)	856	+313	+36%	1,169
学費 (単位:百万円)	995	+261	+26%	1,256
人件費 教職員人件費 (単位:百万円)	1,003※注2	△149	△15%	850
人件費比率	71%			51%
教育研究経費 (単位:百万円)	427	+111		538
管理経費 (単位:百万円)	256	+75		331
教育活動収支差額 (単位:百万円)	△ 240	+259		19

学生数計算基礎	
入学者	大学 290名 (310名入学、20名退学)
	高校 35名
	中学 20名
	幼稚園25名

財源部

(単位 百万円)

項目			実績←													
			2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)	2031(R13)	2032(R14)
在 籍 者 数	大学院	学生数	4	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	大学(学部)	学生数	1,305	1,332	1,316	1,304	1,259	1,170	1,160	1,160	1,160	1,160	1,160	1,160	1,160	1,160
	高等学校	生徒数	152	135	124	128	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105
	中学校	生徒数	68	53	57	61	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
	幼稚園	園児数	63	63	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
	合計		1,592	1,586	1,577	1,573	1,504	1,415	1,405	1,405	1,405	1,405	1,405	1,405	1,405	1,405
	専任	教職員数	136	125	112	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115

梅ヶ崎売却

項目		実績←														
		2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)	2031(R13)	2032(R14)	2033(R15)
教育活動収支	学費	入学金	16	15	13	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
		授業料	874	892	868	864	825	797	797	797	797	797	797	797	797	797
		その他学生納付金	411	458	483	448	428	426	426	426	426	426	426	426	426	426
		小計	1,301	1,365	1,364	1,324	1,264	1,234	1,234	1,234	1,234	1,234	1,234	1,234	1,234	1,234
	寄付金	周年寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他の寄付金	8	3	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
		小計	8	3	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
	補助金	経常費運営費補助金	321	286	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260
		大学無償化	0	73	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		小計	321	359	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360
	その他収入	手数料	14	17	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
		資産運用収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		資産売却差額	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		事業収入	35	23	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56
		雑収入	30	81	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64
		小計	80	121	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130
		教育活動収入	1,710	1,848	1,865	1,825	1,765	1,735	1,735	1,735	1,735	1,735	1,735	1,735	1,735	1,735
		人件費	教員人件費	536	479	447	450	455	460	465	470	475	480	485	490	495
	職員人件費		286	273	237	240	245	250	255	260	265	270	275	280	285	290
	役員報酬		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	退職金		14	58	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
	業務委託		0	0	70	70	65	60	55	50	45	40	35	30	25	20
	小計		843	817	791	797	802	807	812	817	822	827	832	837	842	847
	教育研究経費	教育研究費	332	206	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265
		同上 奨学費(含大学無償化)	77	162	200	200	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180
		同上 減価償却費	228	221	221	221	221	221	221	179	179	179	179	179	179	179
		小計	637	589	686	686	666	666	666	624	624	624	624	624	624	624
	管理経費他	管理経費	265	270	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230
		同上 減価償却費	64	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
		資産処分差額	936	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他経費	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
		小計	1,265	318	257	257	257	257	257	257	257	257	257	257	257	257
	教育活動支出	2,745	1,724	1,734	1,740	1,725	1,730	1,735	1,698	1,703	1,708	1,713	1,718	1,723	1,728	1,733
教育活動収支差額		-127	104	131	85	40	5	0	37	32	27	22	17	12	7	2

収支 教育活動外	教育活動外収入	受取利息・配当金	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
		教育活動外収入計	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
		借入金等利息	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	教育活動外支出	その他の教育活動外支出	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		教育活動外支出計	6	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
		教育活動外収支差額	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	経常収支差額		-127	106	132	86	41	6	1	38	33	28	23	18	13	8	3

当年度収支差額+減価償却+資産売却	185	352	378	332	287	252	247	242	237	232	227	222	217	212	207
-------------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

本件(CLキャンパス整備)	451	314	204	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修繕・ICT	300	100	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
投資CF	751	414	354	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150

FCF ①	-566	-62	24	182	137	102	97	92	87	82	77	72	67	62	57
-------	------	-----	----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

自己資金	200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本件借入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
既存	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本件(CL)	41	120	120	120	119	119	119	119	123	300	0	0	0	0	0	0
借入金返済	41	120	120	120	119	119	119	119	123	300	0	0	0	0	0	0
財務CF ②	159	-120	-120	-120	-119	-119	-119	-119	-123	-300	0	0	0	0	0	0

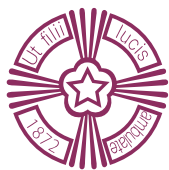
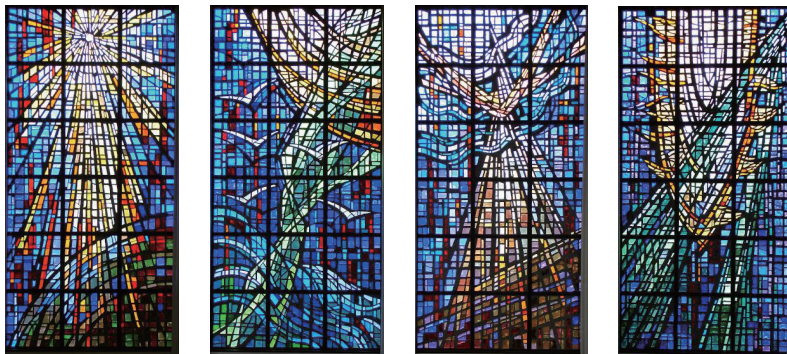
単年度収支(①+②)	-407	-182	-96	62	18	-17	-22	-27	-36	-218	77	72	67	62	57
------------	------	------	-----	----	----	-----	-----	-----	-----	------	----	----	----	----	----

現預金(支払資金)	1,628	1,569	1,473	1,535	1,533	1,536	1,514	1,487	1,451	1,233	1,310	1,382	1,449	1,511	1,568
確保しておくべき資産	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800
計	2,428	2,369	2,273	2,335	2,353	2,336	2,314	2,287	2,251	2,033	2,110	2,182	2,249	2,311	2,368

既存	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本件	1,259	1,140	1,020	901	781	662	542	423	300	0	0	0	0	0	0	0
借入残高	1,259	1,140	1,020	901	781	662	542	423	300	0	0	0	0	0	0	0

BAIKO VISION for 2025

総合学園としての宣言



学校法人
梅光学院

〒750-8511 山口県下関市向洋町1-1-1
TEL 083-227-1000
<https://www.baiko.ac.jp>

